東京都自立支援協議会の検討内容報告

東京都自立支援協議会副会長高澤勝美氏

社会福祉法人武蔵野で、デイセンター山びこ、知的障害者の生活介護施設の施設長をしている高澤と申します。

本日は、東京都自立支援協議会の副会長という立場で、今までの活動についてご説明をさせていただきたい。

【東京都の自立支援協議会の特徴】

私は、東京都の自立支援協議会のほかに、武蔵野市でも自立支援協議会の副会長をしている。先日、拡大協議会といって、協議会の親会と各部会の正副部会長を交えた会議を行った。その中で、ある相談支援事業者の方が、やっぱり連携が必要だという話の中で、それぞれが自分の専門性だけ、もしくはサービスだけに限定せずに、ちょっとずつ張り出していくこと、それが地域を耕す連携じゃないかという話をしていた。

本日は、この会場の中にも地域自立支援協議会の関係者もいらっしゃると思う。東京都との違いについても少し触れながら、今期の活動についてご説明させていただく。

私ども東京都自立支援協議会では、地域自立支援協議会と異なって、東京都ならではの活動テーマを絞って運営をしている。ただ、年何回も頻繁に会をするわけではないので、どうすれば合理的にできるのか悩みながら実施している。そこで大切になるのは、やはり活動テーマ、どこを目指していくのかということになる。自立支援協議会では、幅広く、どんなテーマでも扱っていいわけだが、やはり絞っていかないと実績あるものにはならないということから、私どもでは障害者児、家族が安心して地域生活を継続できるための支援を考えるということを、この協議会統一のテーマとして活動している。

【第３期のテーマ】

第３期では、さらにそれを限定し、「相談支援の仕組みを東京で実のあるものへ」と定めた。国の主管課長会議資料でも計画相談の進捗の遅れと、その対応について記載されていたが、私どもも東京都の現状を考えて、相談支援について特に力を入れている。３回の本会議の中でどう結びのあるものにするのか、我々も進めているところ。

さて、地域との違いは、上とか下とかという関係ではないので、東京都は東京都の自立支援協議会の視点を持たなくてはいけないということで、都全体を俯瞰する物の見方をしていかなくてはいけない。また地域では埋もれてしまいがちな、少数の障害を持つ方への視点。東京都は福祉圏域がないが、これはこれで歴史があるわけで、人口規模も小さな地域から県を超える区まである。その中で、進んだサービス資源及びケースワークが実践されているところもあれば、まだそうではないところもある。福祉圏域で進めていくということが遅れていた影響で、民間における相談支援やケースワークが遅れていたのかなとも思う。

３回の本会議やこのセミナー、多摩地域自立支援協議会交流会で皆様と交流を図り、いろいろな情報をいただき、関係機関、当事者、都民に発信していくのが私たちの務めということで活動している。

【第３期の活動状況】

（活動の概要）

このスライドは、先日の本会議、グループ討議の様子。

このスライドは、昨年のセミナーの様子。昨年は厚生労働省の遅塚専門官にお越しいただいて、地域特性を踏まえた相談支援のあり方についてご講義をいただいた。

こちらのスライドは多摩地域自立支援協議会交流会。パネルディスカッション、グループワーク等をとおし、全地域に地域自立支援協議会を立ち上げるために情報交換等を行っている。

あと、「東京都内の地域自立支援協議会の動向」という冊子を発行している。今年度版は編集中で、これから発行をする予定。内容は、自立支援協議会の活動状況、全体会、事務局会議、定例会、専門部会、個別支援会議等の実施状況、基幹相談支援センターの設置状況等をまとめたもの。

このスライドは委員名簿。区部の方、市部の方、また行政、事業者、当事者の方、学識経験者、ドク

ター、また障害種別も身体、知的、精神等、それから当事者の方というようにバランスよく参加していただいている。

（ライフステージ）

私どもは今年度、ライフステージというものを見つめ直し、その中から浮かび上がってくる相談支援を類型化していこうということで進めているところ。

乳幼児期、学齢、青年、壮年、高齢期ということになるが、最初は１．５歳の検診等、保育園、幼稚園、学校、学齢期も中学、高校と上がっていく。成人期は年金や４０歳ごろから始まっていく高齢化家族の親なき後の問題。今日もお話があると思うが、老障介護の問題、看取りの問題というように、ライフステージには折々のイベントがあり、その中でどのような支援が必要になるのか類型化している。

こちらのイメージ図は、本会議でいろいろ事例を出し合い、それをまとめたもの。

子どもの問題、学齢期の問題、就労、進路の問題、生活上の課題もあれば住まいの問題、成年後見や多問題家族、そういったいろいろな問題が人生の中に起きてくるということで、いろいろ出し合ってサービスの類型化をしてみた。少し整理した図になっているが、青年期に向かうほど活動領域が広がるので、サービスもたくさん使うことになり、相談領域も広がるということになる。逆に終末期には介護保険等のつながりも出てくるわけですけれども、非常に狭まってくるような傾向がある。いろいろなサービスが縦横斜め、連携していくイメージを表現している。

（計画相談）

先ほども触れた国の主管課長会議資料に計画相談のことが出ていたが、とにかく全国的に進んでいない、東京も進んでいない。私のところの相談支援事業所では、今年１３０件ぐらい作っているがなかなか大変。高齢のケアマネと非常に似たような仕事になるが、それと同じ単価。モニタリングの回数が少ないとか、いろいろ考えていくと、これでやっていけるのかなと、事業者としては思ったりもしている。ただ、この計画相談というのは、障害を持つ方の適切なサービスをつくっていくためには、とても大切な機能なので、やはり推し進めていかなくてはいけないと思う。

始めてみると、給付と計画相談が分かれているので非常に手間であったり、給付がないのに計画が作れるのかなど感じる。また、既に市区町村の窓口で、ケースワーカーが給付と相談を一体化して提供しているので、分けることの手間を考えると、なかなかこの事業が進まないのもわかる。しかし分けることの意味も必ずあるはずで、そういったことについて、私たちは皆さんと一緒に学んで形にしていければと思っている。

（今後の予定等）

先ほどお話をしたように、まだ本会議のグループワークは途中なので、これから今の議論を進めて、皆様にお返しできるようにまとめていきたいと考えている。

また、本日はこの後、指定発題の皆様からのお話を聞き、会場の皆様からアンケートをいただいて、それをまた一緒に共有していきたいと思っている。そういったところから、次の東京の相談支援のあり方について、もう少し明確な実像を結んでいければと思っているところ。

また、今年度も１月２９日、立川において多摩地域自立支援協議会交流会を開催する。先ほどご紹介した「東京都内の地域自立支援協議会の動向」冊子については、１月に発行する予定なので、ご参考にしていただければと思っている。

我々は第３期で、こういったテーマに絞って活動しているが、次の第４期、そして計画相談や一般相談の内容が充実していくようにつなげていけたらと思っているところ。

この後、それぞれの現場の方からお話をいただきますので、ぜひ興味を持って聞いてみたい。そして、本日ご参加の皆さんからも、現場でお感じになっていることをアンケートに寄せていただいて、それを集約させていただきたいと思っているのでご協力お願いしたい。

以上、協議会の活動内容についてご報告させていただいた。